

令和元年(2019年)度病床機能転換事業計画報告書

- 1 病院名： みくに病院
- 2 所在地： 埼玉県春日部市下大増新田 97-1
- 3 病床機能転換概要

転換前病床 機能区分	転換病床数(床)		整備事業 内容	整備事業 開始(着工) 予定年月	整備事業 完了(竣工) 予定年月
	地域包括 ケア	回復期リハ			
急性期	16	0	設備整備	2019年7月	2019年8月

※転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

※整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

4 整備方針、目標

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

地域包括ケアシステム推進の観点から、ポストアキュート・サブアキュートの機能強化を目的とし、地域の関係機関と連携して医療介護の充実を図っていく。

○新たに担う役割

自院、他院を問わず急性期治療を終えた機能回復等が必要な患者の受け入れを積極的にを行い、地域患者の在宅復帰支援を推進する。

特にサブアキュート機能については関係機関からのニーズに応えられるよう充実を図る。

○将来の方向性

地域の高齢化に対応した地域医療の充実を図るため、地域の医療機関、在宅・介護施設との連携をより一層密に行い、地域包括ケアシステムの充実に貢献していく。

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

特に夜間・休日の検査や自傷他害の行為のある患者は、専門分野の従事者が不在となり、急な対応が困難である。

今後は、更に高齢者の増加が予想され、一般病床と地域包括ケア病床を取得することによって、それぞれの病床機能を活かした医療の提供が可能となる。

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 地域包括ケア入院医療管理料 1	算定開始予定年月 2019年 10月
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)	
【転換前】地域包括 0 床 …………… ≪参考≫ 急性期 48 床 他の病院から 年間約 15 人 (2.0%) 外来・救急・自宅から 年間約 440 人 (57.9%) 診療所から 年間約 5 人 (0.6%) 介護・福祉施設等から 年間約 300 人 (39.5%) 訪問診療を行う患者数 年間約 250 人	【転換後】地域包括 16 床 急性期 (ポストアキュート) から 年間約 80 人 (38.1%) 内訳：自院から年間約 40 人 他病院から年間約 40 人 介護・福祉施設、在宅患者等 (サブアキュート) から 年間約 130 人 (61.9%) 訪問診療を行う患者数 年間約 260 人
医療 (介護) 連携見込み (※具体的に記入してください。)	
【転換前】地域包括 0 床 …………… ≪参考≫ 急性期 48 床 ○紹介元：春日部市立医療センター、秀和総合病院、みくに中央クリニック、宮本医院、介護老人保健施設ちとせ、特養おおまし、特養ひなの杜、特養ひなの槻 ○紹介先：獨協医科大学埼玉医療センター、春日部市立医療センター、秀和総合病院、介護老人保健施設ちとせ、特養おおまし、特養ひなの杜、特養ひなの槻	【転換後】地域包括 16 床 ○紹介元：獨協医科大学埼玉医療センター、春日部市立医療センター、秀和総合病院、みくに中央クリニック、宮本医院、介護老人保健施設ちとせ、特養おおまし、特養ひなの杜、特養ひなの槻 ○紹介先：介護老人保健施設ちとせ、特養おおまし、特養ひなの杜、特養ひなの槻

※届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料 1」「地域包括ケア入院医療管理料 1」等該当するものを記載。

6 医療 (介護) 連携における課題、問題点

○市町村・ケアマネジャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズに行われているか 等

- ・待機患者さんは滅多にいないが、早期に受け入れ出来るよう入退院の管理を行っている。
- ・施設や近隣からの受け入れ要請に対し、相談員を通じて早急に対応するよう心掛けている。
- ・緊急入院患者のケアマネジャーとの連携をスムーズに行うために、人員を増員し早期在宅移行できるようケアマネジャーとの連携・強化に努める。
- ・関係機関との連携業務、連絡調整業務の増加が予想されるため、担当職員の増員を計画している。